

質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大 学 等 名	東京医科歯科大学		
取 組 名 称	下級生が上級生に教わる歯科臨床体験実習		
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組		
取 組 期 間	平成20年度～平成22年度（3年間）		
取 組 学 部 等	歯学部	取 組 担 当 者	木下淳博
W e b サ イ ト	http://www.tmd.ac.jp/dent/program/tmd02/index.html		
取 組 の 概 要	<p>臨床実習前の学生には、座学での履修内容が臨床的にどのような意味を持っているのかを具体的にイメージし、理解することが困難である。また、実際に患者の診療を行うには知識や技能だけでなく、患者と良好なコミュニケーションをとって信頼関係を築く態度も早期から必要となる。</p> <p>そこで、下級生が臨床実習中の上級生から教わる臨床体験実習プログラムを開発し、実施した。</p>		

1. 取組の実施状況等

①取組の実施状況

（1）取組の実施体制

歯学科5、6年の学生診療室では、毎日7名の臨床系教員が指導を担当した。歯学科4年の臨床体験実習では、さらに6名の教員が3名ずつ隔週で指導を担当した。歯学科5、6年の臨床実習については、月に1回程度指導者会議を開催し、年に1回歯学部臨床教育会議を開催していた（現在は歯学部教授会にて協議している）。

口腔保健学科3、4年の学生診療室では、毎日3名が指導を担当した。口腔保健学科2年の体験実習では体験実習指導者をさらに1名配置した。

e-learning システムの管理は全学の図書館情報メディア機構のメディア教育推進部門運営委員会が担当し、事務処理およびヘルプデスクを図書館メディア情報掛が担当した。また、学内LAN全般の管理運営は図書館情報メディア機構の情報基盤部門が担当した。

（2）取組の実施計画に掲げた内容

・平成20年度：1)学生診療室監視・通信装置の導入、2)臨床体験実習の実施、3)学生診療の収録と学生へのフィードバックの実施

・平成21年度：1)学生診療室監視・通信装置の追加導入、2)臨床体験実習の継続実施、3)学生診療の収録と学生へのフィードバックの継続実施、4)医歯学シミュレーション教育システムの発展的活用

・平成22年度：1)学生診療室監視・通信装置の追加導入、2)臨床体験実習の継続実施、3)学生診療の収録と学生へのフィードバックの継続実施、4)医歯学シミュレーション教育システムの発展的活用、5)診療室一講義室同時中継システムの発展的活用

・参加する教職員と学生の数：歯学科4～6年、および口腔保健学科2～4年、年間約288名の学生が参加した。歯学部および全学組織の教職員として、年間約50名が取組に参加した。

（3）社会への情報提供活動

本学Webサイト（<http://www.tmd.ac.jp/dent/program/tmd02/index.html>）、文部科学省GPポータル（<http://gp-portal.jp/src/ippan/shoukaiPage.cfm?id=699>）に、取組の概要、下級生からの評価結果、上級生からの評価結果、臨床現場同時中継講義の評価結果、成果報告リストを掲載し、社会への情報提供を行っている。

日本歯科医学教育学会、日本医学教育学会、口腔病学会、米国歯周病学会、GPフォーラムにて成果報告（計11件）を行い、国内外の教育関係者と成果を共有した。

②. 取組の成果

教育内容の質的向上の成果と具体的評価結果

臨床実習中の歯学科 5、6 年生が 4 年生に教える臨床実習体験実習および口腔保健学科 4 年生が 3 年生に教える臨床実習体験実習を実施し、低学年の学生に臨床実習現場を体験させたことにより、将来の歯科医療人としての自覚を高めさせ、歯科臨床に必要な基本的態度と知識を身につけさせた（歯学科学生による学習目標の達成に関する評価結果：基本的態度と知識 100%、症例分析能力・治療計画立案能力 83%、医療面接 95%）（口腔保健学科 3 年生（下級生）による評価結果：学習目標を達成できた 100%、患者を把握できた 87%、実践的に学べた 91%）（口腔保健学科 4 年生（上級生）による評価結果：下級生にとって教育効果が高い 100%、自分（上級生）にとって教育効果が高い 94%、興味を持てた 94%、将来役立つ 100%）

診療をリアルタイムで同時中継し、臨床実習以外でも臨床現場を疑似体験させる機会を増やした。これにより、将来の歯科医療人としての自覚を高めさせた（学生による評価結果の例：同時中継講義に興味を持った 93%、わかりやすかった 90%、将来役立つ 98%、臨場感を感じた 93%、通常授業の興味を深めた 98%、もっと受講したい 88%、継続すべき 88%、ビデオより良かった 92%、通常講義より良かった 93%、外来見学より良かった 88%）。

学内でこれまで開発してきたオリジナル臨床シミュレーション教材を、既存の e ラーニングシステムを介して学生に提供することにより、講義や実習以外でも臨床現場を疑似体験させる機会を増やした（歯学科 134 本、口腔保健学科 29 本）。これにより、将来の歯科医療人としての自覚を高めさせた。

計画時における目的と到達目標、および実際の成果

計画時における到達目標と、学生からの評価結果は次の通りであった。

イ)「医療現場を体験することにより、将来の医療人としての自覚を高め、臨床に必要な基本的態度と知識を身につける」は達成できた

⇒はい 64%、どちらかといえばはい 37%、どちらかといえばいいえ 0%、いいえ 0%

ロ)「歯科における治療計画立案の重要性を理解し、症例分析能力・治療計画立案能力を修得する」は達成できた

⇒はい 41%、どちらかといえばはい 41%、どちらかといえばいいえ 18%、いいえ 0%

ハ)「医療現場において、実際の患者に医療面接を行い、将来の医療人としての自覚を高め、医療面接に必要な基本的態度と知識を身につける」は達成できた

⇒はい 43%、どちらかといえばはい 52%、どちらかといえばいいえ 5%、いいえ 0%

各到達目標は、それぞれ 100%、83%、95%の学生が「到達できた」または「どちらかといえば到達できた」と回答しており、計画時の目標を 8 割以上達成できたと考えられる。

本取組が学内外に与えた波及効果

日本歯科医学教育学会学術大会、日本医学教育学会、米国歯周病学会等にて成果報告を行い、他大学歯学部および歯科衛生士養成機関での臨床実習、臨床体験実習の実態を調査するとともに、意見交換を行った。その結果、3 大学（国内 2、国外 1）の教員および 3 企業の担当者より実習の視察を受け、4 大学、1 企業が、臨床現場を疑似体験させる教材を本学と共同開発した。他大学等でも同様のピアサポート教育・臨床体験実習が普及するきっかけになったと思われる。

③. 評価及び改善・充実への取組

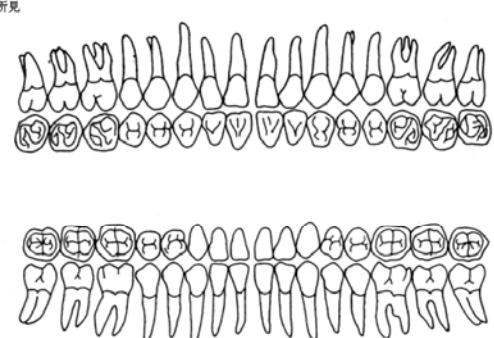
取組の評価は、歯学部教育委員会による授業評価（無記名；マークシートにより回答）、および図書館情報メディア機構が管理する e-learning システムによる授業評価で実施した。

また、学生の学習成果については、臨床体験実習中に学生が提出するケース票（臨床実習体験ケース、治療計画立案ケース、医療面接体験ケース、口腔内状態の記録ケース等）を用いて書類審査により行った。さらに、e-learning 上で実施した臨床体験実習については、各教材の実施歴（実施教材数）・実施成績（SCORM 点数）によって学生の評価を行い、教材毎に設定された教材評価アンケートにより、教材自体の評価を実施した。

臨床体験実習担当教員は、各授業後半のグループ討論時に学生の形成的評価を行い、次回以降の臨床現場での体験実習の改善に役立てている。また、e-learning システムによる体験実習教材については、歯学部教育シミュレーション作成小委員会・作業部会での討論および教材レビュー（各教材最低 2 名）によって質の保証を行っている。実施後の各教材の評価結果は教材作成担当教員にフィードバックしており、教材の改善に役立てている。

取組の達成度は e-learning システム上での授業評価で測り、学生の学習成果は提出されるケース票による実施症例数、記載内容、および臨床体験実習教材 120 本中の実施本数、実施成績（各教材 100 点満点）によって評価した。

学習成果を測るためのケース票の例：

<p>臨床体験実習 2 D6 体験実習 医療面接体験ケース 実習記録 C () 枚目</p> <p>歯学科 4 年 事務処理番号： _____ 氏名： _____</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">医療面接体験 実施年月日</td> <td style="width: 20%;">年 月 日</td> <td style="width: 20%;">患者 ID</td> <td style="width: 20%;">患者イニシャル</td> </tr> <tr> <td colspan="2">担当 D6 事務処理番号・氏名</td> <td colspan="2">担当 D6 面接実施承認印またはサイン</td> </tr> <tr> <td>番号</td> <td>氏名</td> <td colspan="2">担当 D6 ライター または 担当 D4 ライターの面接実施承認印</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">本院での診療開始年月日</td> <td style="width: 20%;">年 月 日</td> </tr> <tr> <td colspan="2">現時点での（または初診時の）主訴（気になる・問題のある事項）（患者さんの言葉で）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">現時点での（または初診時の）主訴に関する病歴（症状の変化、治療経過）（患者さんから聞き出すこと）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">既往歴（全身疾患、薬歴等）（患者さんから聞き出すこと）</td> </tr> </table> <p>※医療面接体験 1 ケースを必修とする。</p>	医療面接体験 実施年月日	年 月 日	患者 ID	患者イニシャル	担当 D6 事務処理番号・氏名		担当 D6 面接実施承認印またはサイン		番号	氏名	担当 D6 ライター または 担当 D4 ライターの面接実施承認印		本院での診療開始年月日	年 月 日	現時点での（または初診時の）主訴（気になる・問題のある事項）（患者さんの言葉で）		現時点での（または初診時の）主訴に関する病歴（症状の変化、治療経過）（患者さんから聞き出すこと）		既往歴（全身疾患、薬歴等）（患者さんから聞き出すこと）		<p>臨床体験実習 2 D6 体験実習 口腔内状態の記録 D () 枚目</p> <p>歯学科 4 年 事務処理番号： _____ 氏名： _____</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">実習日</td> <td style="width: 20%;">平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日（曜日）</td> </tr> <tr> <td>患者役</td> <td>事務処理番号： _____ イニシャル： _____</td> </tr> </table> <p>口腔内所見</p>  <p>実習の感想</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">体験実習 2 ライター ケース認定日および印</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">患者役 本用紙の記録ではなく、自分が患者役を担当した場合に印</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">診察係 本用紙の記録ではなく、自分が診察した場合に印</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">記録係 本用紙に記録係として記入した場合に印</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">年 月 日</td> <td style="text-align: center;">年 月 日</td> <td style="text-align: center;">年 月 日</td> <td style="text-align: center;">年 月 日</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">◎</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> </table> <p>※口腔内状態の記録は 1 ケースを努力目標とする。</p>	実習日	平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日（曜日）	患者役	事務処理番号： _____ イニシャル： _____	体験実習 2 ライター ケース認定日および印	患者役 本用紙の記録ではなく、自分が患者役を担当した場合に印	診察係 本用紙の記録ではなく、自分が診察した場合に印	記録係 本用紙に記録係として記入した場合に印	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	◎	◎	◎	◎
医療面接体験 実施年月日	年 月 日	患者 ID	患者イニシャル																																		
担当 D6 事務処理番号・氏名		担当 D6 面接実施承認印またはサイン																																			
番号	氏名	担当 D6 ライター または 担当 D4 ライターの面接実施承認印																																			
本院での診療開始年月日	年 月 日																																				
現時点での（または初診時の）主訴（気になる・問題のある事項）（患者さんの言葉で）																																					
現時点での（または初診時の）主訴に関する病歴（症状の変化、治療経過）（患者さんから聞き出すこと）																																					
既往歴（全身疾患、薬歴等）（患者さんから聞き出すこと）																																					
実習日	平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日（曜日）																																				
患者役	事務処理番号： _____ イニシャル： _____																																				
体験実習 2 ライター ケース認定日および印	患者役 本用紙の記録ではなく、自分が患者役を担当した場合に印	診察係 本用紙の記録ではなく、自分が診察した場合に印	記録係 本用紙に記録係として記入した場合に印																																		
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日																																		
◎	◎	◎	◎																																		

④. 財政支援期間終了後の取組

財政支援期間終了後の財政措置

財政支援期間終了後は、学長裁量経費である「フォローアップ経費」により取組を継続実施している。

平成 23 年度は、歯学部において構築してきた「下級生が上級生に教わる歯科臨床体験実習」を、大学院生・教職員・留学生・国際交流拠点大学・医歯学融合教育にも応用し、より広義の「医歯学国際ピアサポート教育システム」に発展させるべく、体制、設備の充実を図っている。

現在、本取組を発展的に拡大している「医歯学国際ピアサポート教育システム」では、大学院講義や学生による抄読会、後輩への指導等を、国際交流拠点大学との間で、インターネット経由で、無料で日常的に実施することも計画している。これにより、後輩を指導することにより得られる学習効果、先輩から教わることによるモチベーションの向上効果のみならず、学生や教職員が日本に居ながらにして国際感覚を身につける効果が期待できる。海外派遣前にピアサポート教育を実施することにより、学生の海外派遣による学習効果が高まると思われる。

財政支援期間終了後の体制

財政支援期間終了後も、臨床体験実習は継続的に実施することとなっており、現員教員により担当インストラクタを分担している。

e-learning による臨床体験教材の開発と評価は、歯学部教育委員会の下部組織である歯学部教育シミュレーション作成小委員会および同作業部会によって継続的に行われている。実施させるための e-learning システムは、図書館情報メディア機構のメディア教育推進部門運営委員会（各部局から教授等が委員として任命され、計 9 名の委員とメディア情報掛、教務掛等が陪席して 2～3 カ月カ月に 1 回程度開催される）により継続的に運営されている。

2. 取組の全体像

本学歯学部の新カリキュラムでは、臨床予備実習に入るまでは継続して臨床を経験するような機会がなかった。そのため学生は、座学での履修内容が臨床的にどのような意味を持っているのかを具体的にイメージし、理解することが困難であった。また、マネキンを使用した模型実習は基本的な技能を修得するために一定の効果をあげているが、実際に患者の診療を行うには知識や技能だけでなく、患者と良好なコミュニケーションをとって信頼関係を築く態度や、臨床体験をもとに自己の能力を成長させる機会も早期から必要となる。臨床実習で実際の患者を担当した最終学年の学生からの意見によると、早期の臨床体験に対する学生のニーズは高い。

上級生が下級生に教える屋根瓦方式の教育システムは、教える側の理解を深め、教わる側の学習へのモチベーションを高める方法として知られているが、本学歯学部の新カリキュラムでは上級生が下級生に教える科目はなく、教えたり教わったりすることによって学習する機会もなかった。そこで、下級生が臨床実習中の上級生から教わる臨床体験実習プログラムを開発し、実施した。

